

## 再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局環境安全課

担当課長名：森山 誠二

事業名	市道 <sup>たや</sup> 田谷線		事業区分	地方道	事業主体	横浜市
起終点	自：神奈川県横浜市 <sup>みかえくた やちよう</sup> 栄区田谷町 至：神奈川県横浜市 <sup>みかえくた やちよう</sup> 栄区田谷町			延長	0.67km	
事業概要						
<p>市道田谷線は、都市計画道路田谷線と戸塚大船線の一部で構成されており、横浜藤沢線と市道下倉田第406号線を接続する延長約0.67kmの道路です。</p> <p>本路線は、首都圏中央連絡自動車道の一部区間である横浜環状南線と横浜湘南道路の出入口となる（仮称）栄インターチェンジ・ジャンクションにて接続し、栄区及びその周辺からのアクセス性を高め、横浜環状南線及び横浜湘南道路の利便性を向上させるものです。</p>						
H16年度事業化		H7年度都市計画決定		H16年度用地着手		H29年度工事着手
全体事業費		約20億円		事業進捗率		約53%
計画交通量		8,400台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	25.2		総費用 (残事業)/(事業全体)	7.5/22億円	
	(残事業)	72.8		事業費	7.0/21億円	
				総便益 (残事業)/(事業全体)	548/548億円	
				走行時間短縮便益	529/529億円	
				走行経費減少便益	20/20億円	
				交通事故減少便益	-1.2/-1.2億円	
基準年 平成29年						
感度分析の結果						
(事業全体) 交通量			: B/C=16.7~35.9 (交通量 ±10%)		(残事業) 交通量 : B/C=48.2~103.8 (交通量 ±10%)	
事業費			: B/C=24.3~26.1 (事業費 ±10%)		事業費 : B/C=66.1~80.8 (事業費 ±10%)	
事業期間			: B/C=23.3~27.0 (事業期間±10%)		事業期間 : B/C=69.2~75.2 (事業期間±10%)	
事業の効果等						
1. 歩行者・自転車の安全確保						
<p>本路線には、両側に幅員3.0mの歩道が一連で整備されるため、歩行者・自転車が安心して快適に通行できるようになります。</p>						
2. 広域アクセスへの寄与						
<p>首都圏中央連絡自動車道の一部である横浜環状南線及び横浜湘南道路と（仮称）栄インターチェンジ・ジャンクションにて接続することから、首都圏各地との連携強化及び利便性の向上に寄与します。</p>						
関係する地方公共団体等の意見						
<p>横浜市中期4か年計画（2014~2017）において、「施策27 交通ネットワークの充実による都市インフラの強化」の主な取り組みとして、横浜環状道路の整備及び都市計画道路の整備が位置付けられています。</p>						
事業評価監視委員会の意見						
事業継続を妥当と認める。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
<p>首都圏中央連絡自動車道の神奈川県区間においては、横浜環状南線と横浜湘南道路が唯一の未開通区間となり、両路線は早期開通を目指し、国土交通省及び東日本高速道路株が事業を進めています。</p> <p>また、本路線は横浜環状南線及び横浜湘南道路の（仮称）栄インターチェンジ・ジャンクションのアクセス道路となっているため、2路線の供用に合わせた供用ができるよう事業を推進する必要があります。</p>						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
用地取得率約85%、事業進捗率約53%						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
<p>本路線は、都市計画決定以降、地元調整や用地取得に多くの時間を要していましたが、平成31年度には、用地取得が完了する予定です。</p> <p>また、（仮称）栄インターチェンジ・ジャンクションにおいて、国土交通省と工事工程を調整しながら、平成30年度も引き続き地盤改良工事や街築工事に着手し、横浜環状南線及び横浜湘南道路の供用に合わせて事業を推進していきます。</p>						
施設の構造や工法の変更等						
地盤改良工事等については、設計の際にコストを意識した構造及び施工方法の検討を行っていま						

す。また、舗装・構造物の基礎等については、再生材を使用する等可能な限りコスト縮減に努めます。

対応方針 事業継続

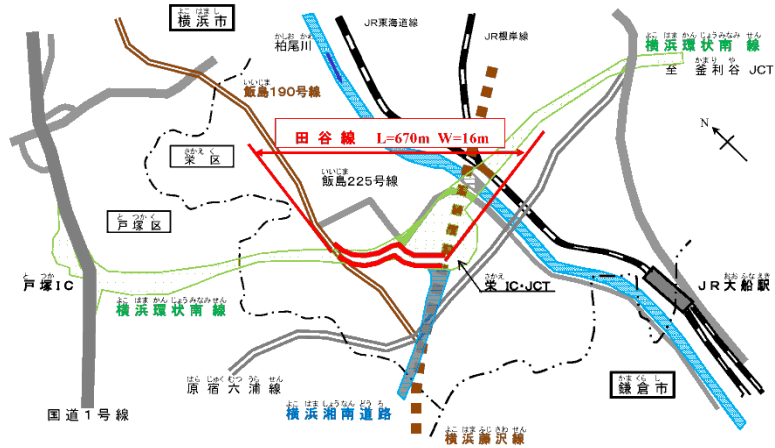
対応方針決定の理由

本路線は、横浜環状南線及び横浜湘南道路の関連街路として重要な路線であり、横浜環状南線及び横浜湘南道路の整備効果を発揮するためにも、一体的に整備することが不可欠です。

横浜環状南線及び横浜湘南道路は本格的に工事に着手しており、関連街路を含め、地元の区連合町内会からも早期開通を望む声をいただいています。

また、用地取得も進んでおり、事業を継続して実施する必要があると判断しております。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。